

谷川連峰 谷川本谷～赤谷川源頭

—大濱

【日時】 2013年8月3日（土）～4日（日）

【メンバー】 L栗原、福永、大濱

谷川本谷と赤谷川源頭を繋ぐ、リーダー曰く易しめで癒し系のルートは、程よい緊張感と疲労感、そして満足感を味わえる楽しい沢でした。赤谷川ではドウドウセン上部の平地に幕を張りましたが、そこら一帯の薪は僅かな小枝まで採りつくした感あり。

8/3（土）曇り一時雨のち晴れ

谷川温泉から二俣までは登山道を歩く。エアリアマップにも「ヒル注意」と記載されるこの道。記録によっては「たいしたこと



【H字滝の1ピッチ目】

なかつた」というものもあるから、時期や天候の僅かな違いで変わるのかもしれないけれど、今回はとにかく壮絶だった。目を凝らすとヒルが乱立して「うぎゃー」と叫ぶこと数回。特に酷い針葉樹帯を抜けて、河原で沢靴を脱いで入念にチェックしていたら、栗原さんが1匹にやられていた。

二俣まで行き、入渓し易そうな場所までちょっと戻る。入渓後しばらくは巨岩のゴ

一口歩きが続く。タカノス沢、川棚沢等を眺めながら進んでいくと、やがてスノーブリッジが現れ、これを潜るとブロック状の雪溪地帯。さらに進むと奥ノナメ沢出合にかかる30mH字滝に出た。H字の左下から上がり、テラスをトラバースして奥ノナメ沢側の右上に上がる。1&3ピッチ目を福永さんに、2ピッチ目を栗原さんにリードして頂いた。3ピッチ目は残置ハーケンあり。だけど、ヌメるしシャワーで寒い…。



【赤谷川に降り立つ】

奥ノナメ沢を進んで滝を超えたところから左側の灌木帯を乗越し、本谷に戻る。再び本谷を遡行すると、思いのほか滝が出

てくる。越えられると思った滝も、一手がちょっとかぶっていたりして、先輩方にお助けを出して頂いて空身で登った。兩岸がボサってきて、三俣に出る。一番水量が多い左俣ではなく、真ん中を進む。すぐに笹藪漕ぎになり、1600m辺りのコルを目指す、夢中で直進して高度を稼いでいたら、小出俣山ピークに続く稜線が見えてきてしまった。戻って沢型を下ると、天国のように評される赤谷川の上流部に降り立つ。

対岸に平らなスペースがあったので、ここで幕。ロケーション最高。だけど、薪になる木が落ちてない。福永さんが、僅かな湿った薪から職人技（&執念）で快適な焚火を作って下さった。おかげで、シャワーやら小雨やらで濡れていた服も乾き、幸せな夜。

8/4（日）晴れ時々曇り

明け方から冷え込んだため、ツェルトの真ん中に寝させて頂いたにもかかわらず、シュラフカバーのみではさすがに寒かった。ちなみに、隣で眠るリーダーの暖かそうなシュラフを羨望の眼差しで眺めるのはこれで



二度目。

朝もやの中に草原が広がり、その中を赤谷川が静かに流れている。うっとりしながらぶらぶらと遡行していたら、次第に兩岸が迫ってきて瀨～ゴルジュの様相となった。水勢が強く、対岸に渡るときなどはピリッと緊張。ここを抜けると再び穏やかな流れとなり、ちょうど進む先から朝日が昇ってきて綺麗だった。

源頭まで詰めたかったが、大障子ノ頭の避難小屋に上がる沢を過ぎた辺りから先は、ずっと雪渓に埋もれていた。ので、残念ながらそこから

【朝靄の中、出発】

登山道に上がって遡行は終了。ハイカーとなって、中ゴ一尾根（稜線の分岐点からは、荒れて廃道のように見えてましたが、下るにつれて道が明瞭になりました）を下り、恐怖のヒル地帯を小走りに抜けて谷川温泉に戻ってきた。先輩方は、ヒル地帯に突入する直前、今回の山行中で最も真剣な（悲壮な）顔をしていた。

【グレード】2級上

【行程】

8/3 谷川温泉(7:00)～入溪(8:30)～H字滝(10:40/12:20)～赤谷川・C1(16:00)

8/4 C1(6:10)～避難小屋へ上がる枝沢(8:00)～稜線(8:45)～谷川温泉(14:00)

【地形図】水上

